

第5回 最上小国川流域環境保全協議会

平成22年3月19日13:30～
最上総合支庁5F講堂



第5回 最上小国川流域環境保全協議会

1. 第4回協議会における 指導事項と対応について



第4回 最上小国川流域環境保全協議会

概 要

開催日時 平成21年11月10日(火)14:00～16:00

場 所 山形県建設会館 5階中会議室

議 事

- 1) 第3回協議会における指導事項と対応
- 2) 今年度の環境調査状況について
 - 2-1) 猛禽類調査について
 - 2-2) 付着藻類調査について
- 3) 環境影響予測の考え方について
- 4) 流水型ダムの先行事例紹介

第4回協議会指導事項と対応

分類	指導内容	対応
調査・解析方法について	①出水による攪乱とアユのはみあとの結果から言えることが明瞭でない。よりデータを蓄積し、理論的に説明する必要がある。	さらに調査を継続し、専門家の意見をいただきながらまとめて行きたい。
	②上下流でアユの餌資源としての質の差が生じる要因を追求する必要がある。少なくとも各地点の流速と濁りを調べたほうが良い。また、ダム完成後の変化も整理してもらいたい。	各地点のデータを整理し、ダム完成後の変化について次回整理して説明したい。
	③平成21年のクマタカBペアの繁殖状況については調べていないのではないか？	Bペアは今年度調査の中で確認されていなかったため、調査していない(斜線)と表記すべきだった。
影響予測について	④流水型ダムの特性として平常時は問題ないが、出水時は一時湛水後半に土砂を引っ張って濁りが続くこと、ピーク流量が減少することに問題がある。これらを整理し提示すると良い。	濁りと流量変化については、次回整理して説明したい。
	⑤工事中の一時的な水の停滞や濁流による下流域の藻類の死滅が心配されるので、どのように対処する予定か説明がほしい。	工事中はダム下流域の流量・水質に影響が生じないような工法を協議会で検討していきたい。
	⑥ダム工事中の影響を含め、想定される問題と対応を具体的に提示してほしい。	同 上
	⑦河川砂地に生息するマグソクワガタや、今年度調査で見つからなかったヒメギフチョウについて、継続調査が望まれる。	来年度も継続調査を実施予定。